

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 20 年 8 月 29 日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501720		
法人名	株式会社 メディカルシャトー		
事業所名	グループホーム 白ゆり青葉		
所在地	札幌市厚別区青葉町6丁目1番29号 (電 話) 011-895-8060		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年8月8日	評価確定日	平成20年8月29日

【情報提供票より】 (20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 10 月 1 日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	25 人 常勤 21人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 1 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,000~54,000 円			
その他の経費(月額)	水光熱費 15,000円	暖房費(11月~3月)	7,000円	
敷 金	有 (円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> (居室料1か月分) 無	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="checkbox"/>	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (7 月 1 日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護 1	1 名	要介護 2	8 名		
要介護 3	12 名	要介護 4	5 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新札幌聖陵ホスピタル、こぶしクリニック、中野医院、K'sデンタルクリニック
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は市郊外の住宅地に立地している。共用空間には畳スペースを設置し、明るく開放的な雰囲気、居室は様々に異なるタイプが用意されている。利用者の安らぎと尊厳ある生活を第一に捉え、「ゆったりと、えがおで」地域の一員としての暮らしの支援を念頭に運営している。運営者と管理者、職員が一体となったチームケアの実践は、熱心な協議を通して、利用者の心身状況や個性、ニーズに合わせ、きめ細かな対応に結び付けている。地域の協力を得て、事業所としてのできる地域貢献にも力を注ぎ、利用者は地域住民との交流を楽しんでいる。一人ひとりのペースでの穏やかな暮らしを支え、良質のケアサービスの追求に真摯な姿勢で取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題である鍵を掛けないケアの実践として、エレベーターの施錠については、事故対策委員会を設けて事業所全体で繰り返し話し合い、共通理解を図りながら日中帯の開放に至っている。また運営推進会議においても、定期的開催の継続に努力してきている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を理解し、全職員で取り組みを実施している。職員個々の記入は難しい面もあったが、日常のケアサービスを振り返る機会としてまとめ上げ、ユニット会議で共有が図られている。今後の取り組みについては改善計画シートを利用しての意欲的な改善の方向性が覗えた。
	重点項目② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域の役員、包括センター職員、家族代表、また法人代表者も出席し、事業所の現状や懸案事項、活動報告、感染症についてなどテーマを拡大し、概ね2ヶ月毎の定期的開催を実施している。家族同士の交流の機会や、地域との良好な情報交換の場にもなり、サービスの質の確保や事業所の運営に反映させている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 事業所通信や、担当職員のコメントや写真が掲載された個別の便りなどで、利用者の日常生活や事業所の状況が伝わる報告に努めている。家族との信頼関係は構築されているが、開設6年目を迎え、事業所の状況の変化もあり、改めて家族の率直な意見や要望の表出を助け、運営に反映させる取り組みを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との関係作りは地道な努力と働きかけにより、双方向の交流が深まりつつある。地域野球少年団の資源回収協力や、町内会の会合に出席し地域の防災委員を担い、ボランティアの導入や介護相談なども気軽に応じている。利用者は敬老会や祭りに出掛けたり、児童会館で子供たちと流しそうめんを楽しみ、近所との付き合いも進んできている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に作成された運営理念は、その人らしい暮らしの実現を第一に捉え、地域密着型サービスの意義を理解し、利用者が地域の一員として暮らせるようにその関係性を重視した内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見易い場所に掲示され、職員採用時には説明し理解を促している。朝礼での復唱、ミーティングや会議などで理念の具現化に向けて協議されてきているが、理念についての意識付けも含め、見直しが検討されている。	○	職員全員で地域密着型サービスの在り方を模索して、より深い理解や共有を図り、見直しなども見据えながら、話し合いを重ねることを期待する。
ま					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の会合にも出席し、地域の防災委員を担い、近隣住民の介護相談なども受けている。地域の祭りや敬老会、児童会館でのイベントへの参加、ボランティアの訪問など、地域の人達との積極的交流に努め、双方向的な関係が深まりつつある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者および職員は、評価の意義を理解し、自己評価に関しては職員全員が記載し、全体としてまとめ上げ、ユニット会議等で共有を図っている。また前回の評価結果については懸案事項として協議し、職員合議の上で改善に繋げている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域役員、包括センター職員、家族代表、また法人代表者も出席し、事業所の現状や活動報告、感染症などテーマを拡大し、概ね2ヶ月毎に開催している。地域住民との関係性が深まり、時には多くの家族の参加も得て、事業所の運営に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者とは良好な協働関係が築かれている。利用者の実情に合わせた相談や、情報交換、実地指導などを通しての事業所理解を深め、共にサービスの向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、担当職員のコメントや写真が掲載された個別の便りや、金銭管理報告を行なっている。不定期だが、利用者の暮らしぶりや事業所の状況などを伝える事業所通信を発行し情報提供に努めている。家族の状況に合わせた報告も実施している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部相談窓口の明記や意見箱が設置されている。電話連絡や訪問の際、また運営推進会議への家族の出席を促し、家族が意見や要望などを言い易い雰囲気努め、信頼関係が築かれているが、家族の意見などの吸い上げにやや不足感がある。	○	長期的利用者の増加に伴い、家族との信頼関係は構築されているが、職員の交代なども有り、改めて様々な機会を捉えて、全職員で家族の率直な意見や要望などを聞き取る方策を検討し、技術を身につけ、運営に反映させる取り組みを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者にとって馴染みの関係での対応を重要視し、職員異動や離職を抑える方策に積極的に取り組んでいる。職員交代時の利用者にも与えるダメージの軽減や安心感への配慮を行なっている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成への認識が高く、法人内研修ではケア全般や食事介助などその時々スキルアップに適切な研修を提供し、非常勤職員も含めて研修に参加している。外部研修は、職員の経験に応じた研修の機会を確保し、研修後報告し共有が図られており、職員の実践力向上に前向きに取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所見学研修はもとより、区内の複数の他法人事業所との相互見学実習を行っている。職員間で交流を持つことで、地域同業者とのネットワーク作りや、職員のストレス軽減に努め、質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は利用希望者の自宅や施設へ訪問し、事業所見学を促して、本人の心情を大切にされた対応に努めている。急速な利用開始であったり、本人との面談ができない場合であっても、入居後は家族と相談しながら、利用者が徐々に馴染めるよう本人の安心に十分な配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	経験豊かな利用者一人ひとりから調理法や昔の出来事、また人生の知恵などを学ぶことも多く、共に過ごし接する中で気持ちを分かち合い、喜びや感謝に繋がる関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にセンター方式を利用した基本情報を作成している。日常の会話や表情からの把握や、困難な場合は全体像からその思いを汲み取り家族に確認し、さらに情報を引き出して本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者個々の実情に合わせた介護記録を作成し、本人や家族の意向や、医療関係者の指示なども考慮して、職員間での意見交換を行っている。一人ひとりの課題やその人らしい暮らしを反映した具体的な介護計画を作成し、チームでの支援に取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員全員で利用者個々の状況について、具体的気づきを出し合っの検討や毎月のモニタリングで本人理解の幅を広げ、状況の確認に取り組んでいる。介護経過をまとめて評価、アセスメントを実施し、3ヵ月毎の見直し、また利用者の実情に即した介護計画の見直しが実施されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望や状況により、協力病院の受診や希望の美容室への送迎を支援している。医療連携の指定を受け、日常の健康管理など、利用者のニーズに合わせた柔軟な支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院から隔週の訪問診療、定期的な受診支援を行なっている。医師や看護師とは良好な信頼関係が築かれており、協力体制ができています。希望の医療機関受診は家族と相談のうえ支援し、利用者が適切な医療を受けられるよう努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りに関して事業所としての指針を明確にし、医師の同席の下、家族、利用者の意向を伺い、事業所として出来得る支援についての共有がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を人生の先輩と心して、利用者のプライドやプライバシーを損なう事も無く、親しみはあるが礼節を保ったさりげない対応を行なっている。個人情報に関する同意を得て、記録の保管などその取り扱いにも注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、全体のバランスを考慮しながら、その日の利用者の状態やペース、希望を大切に、できる限りの個別支援に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食材など食事に関する興味が湧くような場面を作り、その時々の利用者の思いや状況を考慮しながら調理補助や下膳などの手伝いを共に行っている。和やかな雰囲気の中で、職員と一緒に落ち着いて食事を楽しめる気配りをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が可能である。利用者の希望や状態に応じて週に2～3回の支援をしている。清拭やシャワー浴、また1階の大浴室での特殊浴槽を利用して本人が気持ちよく入浴できる様、又、入浴の抵抗感にも配慮した言葉掛けやタイミングの工夫に取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理手伝いや裁縫、家庭菜園、また通信の題字を書いて頂いたり、歌の会の発足など一人ひとりの個性を理解し、日々の生活の中で張りや喜び、楽しみに繋がる支援に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じて、近隣への散歩や買い物、事業所前での日光浴など外気に触れる機会を支援している。ユニット全員でのお花見や地域行事への参加、また誕生日の外出や喫茶店への外出など、できるだけ個別の希望に添って支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りやチャイムなどで出入りの確認が行なわれ、日中帯は玄関は開放されている。エレベーターに関しては、各ユニットや事業所全体で繰り返し協議を重ね、日中帯の開錠の実施に至っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、昼夜想定しての火災訓練、防災避難訓練を実施し、近隣在住の職員への連絡網、災害備品の用意がされている。管理者は地域の防災委員を担っており、地域全体での防災対策や事業所での緊急時の近隣への協力要請を働きかけている。今後、地震を想定した訓練実施を予定している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し、必要と思われる利用者の水分量のチェックを実施している。1日1500kcal摂取を目指し、個々の身体状況、好みなどに合わせて、献立作成や刻み食や特別食など適切に配慮している。また定期的な専門家による指導も受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	増改築された事業所であるが、利用者の実情に合わせて既存の設備を活用、工夫し、温湿度や不快音、陽光などにも気配りしている。共用空間にはゆったりとした畳スペースが設けられ、皆で作成した季節飾りやメニューが掲示されている。全体的に明るく家庭的で、居心地良く過ごせる環境が作られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タイプの異なる居室が用意され、洗面台も設置されている。本棚や箆笥、仏壇や家族の写真など使い慣れた家具や大切にしているものが持ち込まれており、利用者それぞれにとってのゆったりとした落ち着ける居場所になっている。		

※  は、重点項目。